

## CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE 広島 2016年版

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

欄に数値またはコメントを記入

株式会社 ゆめデリカ 深川工場

配慮項目	評価点	重み係数	内訳									
<b>■1.「地球温暖化対策」の推進</b>												
<b>1.1 建物の熱負荷抑制</b>												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 3階外壁に、熱伝導率の低い断熱パネルを使用。	3.0 4.7	0.46 0.54	Q1 室内環境 LR1 エネルギー	2 温熱環境 1 建物外皮の熱負荷抑制	2.1 室温制御	2 外皮性能						
小計	3.9	0.04										
<b>1.2 自然エネルギーの利用</b>												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	1.00	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用								
小計	3.0	0.06										
<b>1.3 設備システムの高効率化</b>												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ LED照明の採用、太陽光発電設備を採用。	5.0	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化								
小計	5.0	0.32										
<b>1.4 設備システムの効率的運用</b>												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0 3.0 0.0 0.0	0.50 0.50 0.00 0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用 4 効率的運用 4 効率的運用 4 効率的運用	集合住宅以外の評価 集合住宅以外の評価 集合住宅の評価 集合住宅の評価	4.1 モニタリング 4.2 運用管理体制 4.1 モニタリング 4.2 運用管理体制						
小計	3.0	0.13										
<b>1.5 資源・マテリアル対策</b>												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 節水型便器の採用し、節水を図る。	4.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.10 0.11 0.05 0.08 0.15 0.15 0.15 0.15 0.15 0.15	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護 1 水資源保護 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 2 非再生性資源の使用量削減 2 非再生性資源の使用量削減 2 非再生性資源の使用量削減 2 非再生性資源の使用量削減 2 非再生性資源の使用量削減	1.1 節水 1.2 雨水利用・雑排水等の利用 1.2 雨水利用・雑排水等の利用 2.1 材料使用量の削減 2.2 既存建築躯体等の継続使用 2.3 軸体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 軸体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み							
小計	3.0	0.32										
<b>1.6 ライフサイクルCO2排出率</b>												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネルギー基準クリアを目指し、省エネ性能の高い設備を採用することで、CO2低減を図る。	4.7	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮								
小計	4.7	0.13										
<b>1.「地球温暖化対策」の推進の評価</b>												
	3.9	0.69										
<b>■2.「ヒートアイランド対策」の推進</b>												
<b>2.1 温熱環境の向上</b>												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0 2.0 3.0	0.52 0.26 0.23	Q3 室外環境(敷地内) Q3 室外環境(敷地内) LR3 敷地外環境	1 生物環境の保全と創出 3 地域性・アメニティへの配慮 2 地域環境への配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上 2.2 温熱環境悪化の改善							
小計	1.7	0.97										
<b>2.2 交通負荷抑制</b>												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制						
小計	3.0	0.03										
<b>2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価</b>												
	1.7	0.21										
<b>■3.「長寿命化対策」の推進</b>												
<b>3.1 耐用性の向上</b>												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 給排水の配管に耐用年数の高い材質を採用。	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 4.0 3.0	0.50 0.13 0.08 0.08 0.04 0.04 0.08 0.08	Q2 サービス性能 Q2 サービス性能 Q2 サービス性能 Q2 サービス性能 Q2 サービス性能 Q2 サービス性能 Q2 サービス性能 Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性 2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振 2.1 耐震・免震・制震・制振 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数 2.2 部品・部材の耐用年数	1 耐震性(建物のこわれにぐさ) 2 免震・制震・制振性能 1 軸体材料の耐用年数 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 3 主内装仕上げ材の更新必要間隔 4 空調換気ダクトの更新必要間隔 5 空調・給排水配管の更新必要間隔 6 主要設備機器の更新必要間隔						
小計	3.1	0.67										
<b>3.2 設備の更新性</b>												
(コメント) ※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.10 0.10 0.20 0.20	Q2 サービス性能 Q2 サービス性能 Q2 サービス性能 Q2 サービス性能 Q2 サービス性能 Q2 サービス性能 Q2 サービス性能 Q2 サービス性能	3 対応性・更新性 3 対応性・更新性 3 対応性・更新性 3 対応性・更新性 3 対応性・更新性 3 対応性・更新性 3 対応性・更新性 3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性 3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性 2 給排水管の更新性 3 電気配線の更新性 4 通信配線の更新性 5 設備機器の更新性 6 バックアップスペースの確保						
小計	3.0	0.33										
<b>3.「長寿命化対策」の推進の評価</b>												
	3.1	0.10										
<b>■重点項目の総平均(上記3項目)</b>												
		3.4										